

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 3年 2月 17日

事業所名 ぽっぽデイ東山台

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	0	机の配置や掲示などで工夫している。	児童発達と併用の為、設備面で放デイには適さない面ある。
	2 職員の配置数は適切である	5	0	会議等で人数が減る時間は事前に対応を考えている。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4	1	手すりを設置し、職員2名で補助を行っている。	トイレ・洗面所へは階段2段がある。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	0	始業前の打ち合わせで前回に気づいた点を共有している。	コロナの影響により集団討議の場面が設定できないでいる。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	0	保護者の意向はしっかりと伝えられている。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	0		月初めに通信をホームページに載せている。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5	0	西児連による相互評価の実施	
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	0	オンライン等の研修機会を活用している。	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5	0	支援会議・電話連絡・対面等による保護者のニーズの把握に努めている。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	0		
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	5	0		始業時にその日のプログラムを話し合ながら決めている。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	0	新しい教材・利用者の関心を育てる活動。利用者の興味中心に寄り添う等実施。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5	0	季節的な活動も含め、活動にバリエーションを持たせている。	コロナもあり長期休暇はプログラムを用意できていないので不十分な部分もある。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	5	0	机の配置の工夫等により、自然な形で集団形成につながるよう工夫。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	0	始業前にハート含め、全員で打ち合わせを行っている。ホワイトボードで役割分担の確認。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	1		その日の終了後にはできないが、翌日の打ち合わせで前日を振り返る等、できるだけ早い時間に問題を共有している。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	0		
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5	0		年2回は行っている。
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	5	0		

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	0	現在では改善されている。	人事異動の関係で難しい面があった。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	5	0	中学からは下校時刻を知らせるプリントを頂いている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	5	0		医療的ケアが必要な子の利用はない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5	0		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	5	0		ケースが少なく、今後の課題。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	0		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	4	1	児童センターや近隣の公園で地域の方と交流がある。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	5	0	北部会に参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	0	複写式連絡ノートを使用したり、送迎時、保護者との共通理解に努めている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	4	1		以前は行っていたので、今後も必要があれば、他機関の協力を得て、実施したい。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	0	契約時に行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	0	気づいた行動、気になる行動等について共有するよう努めている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	1		コロナの影響で実施は少ない。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5	0	苦情対応責任者体制を整えている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	0	月1回発行。また、ごどもんによりオンラインで連絡体制をとっている。	
	35	個人情報に十分注意している	5	0		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	0		保護者には伝達方法、タイミング等を複数の職員で考え、配慮して行っている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	1		コロナの影響により、実施は少ない。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	5	0		
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	0	火災、地震、不審者対応の訓練をしている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	0	適宜、研修課題として取り上げている。	毎年、年初めに行っている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5	0		道路上に子どもが飛び出しそうになった等、危険な行動は抑えるように共有している。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	1	保護者にアレルギーと摂食課題の確認を行っている。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	1	ヒヤリハット記載のファイルや打ち合わせで共有。	事例集の作成は行われていない為、ファイルに記載された際は、ただちに周知徹底をする。